



特
門へ遠 13
番 2208
巻 902



星月夜頭驗録六編附録下

目録

○巴女の傳

於鎌倉御殿勇力の圖

○鄙女裸馬よ乗圖

○女子親奥と取図

○信州木曾福島の驛馬市の景

星月夜頭驗録六編附録下

英 隣々男女風俗の話

○朝比奈三郎義秀再説

○荏柄平太胤長らねの確言

○勢川流水内郡糸路橋の岡

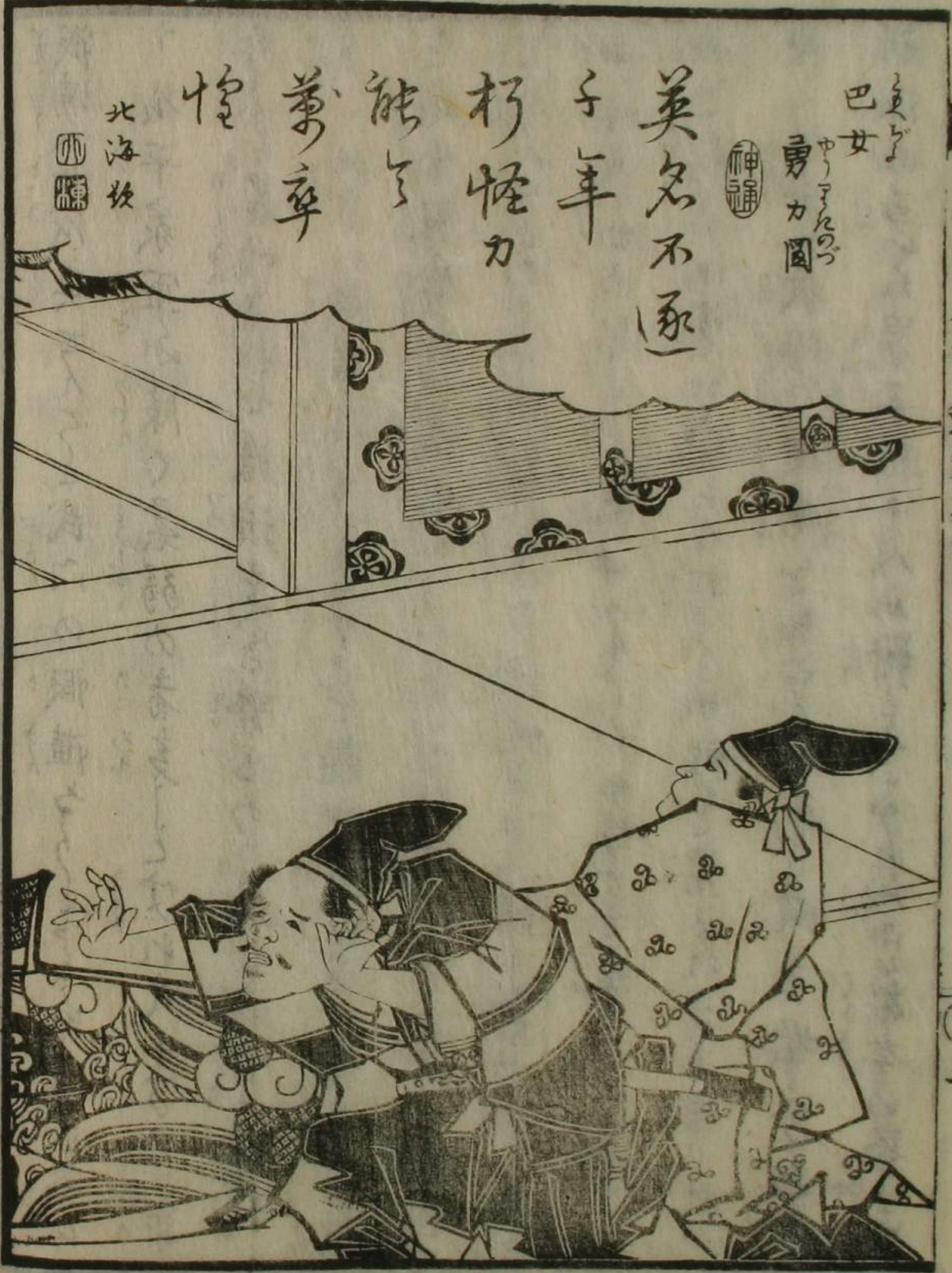
英 彌太郎が瀧の伝

星月夜頭晦録附録下目録終

星月夜頭晦録六編附録下

巴女の傳

巴女々中之推頭兼遠が女みく。樋口次郎兼光今井四郎
兼平の妹たり。兄兩人武勇豪傑の後士たり。巴々々
まみ十倍と。性力の女なり。偏小凡心のはつと。縁
りのと云。嘗て義仲年長ど々に。然るを。縁
候も有る。大志と。披免角。或は。人不知れ
き。専一と。兼遠も。強。其。巴々
吹く。中擲に。木曾殿も。岩木。後
家。通。絆。兼遠。妾に。進歩。



巴女
 勇力圖
 神通
 美名不逐
 千年
 朽怪力
 能令
 菊亭
 惶

北海
 後
 印

西も宣りしんと傍らも切す。長中あつるうらま。あつた
 何とべしと許容あり。巴際る。嘉比合戦に際のみ。大カ
 無双のそいあつた。馬上も山海を馳るら。平原れら。く
 ありも打物の杉甚濃。や。平家の討ま。巴がま先に。りり
 命を墜さふと云ふ。は。後ら。あ。怖。巴と。れ。を。戦。て
 隊。山。崩。し。遊。巻。し。川。を。都。を。皆。く。木。曾。が。多。ぬ。希。有。の
 女武者。木曾山の天狗の。再。来。し。も。云。ふ。者。あり。と。そ。又。は。あ
 ざ。者。も。慄。慄。し。と。され。に。紙。後。紙。中。加。賀。の。軍。了。毎。度。の
 働。に。鉄。を。討。た。し。と。後。あ。と。云。殺。す。あ。る。到。法。と。し。も。容
 貌。さ。ら。ぬ。道。し。ら。ぬ。唯。丈。高。く。少。く。肥。肉。が。あ。美。女。ら。り。

木曾殿粟津の軍よ。終日苦戦し。長仲七郎。不討ま。ら。す
 ま。も。附。添。ひ。東。軍。の。ま。を。懸。し。討。た。れ。た。運。命。を。う。た。て
 敵。の。目。か。あ。ま。ら。大。軍。を。上。平。家。の。後。と。遠。ひ。若。あ。殺。さ。し
 多。り。れ。ば。討。た。も。突。た。も。入。替。り。し。湖。の。浦。を。く。は。め。ら。ぬ
 と。む。に。討。死。せ。ん。と。是。時。に。室。勢。の。血。戦。一。際。目。を。し。し
 敵。七。郎。長。力。に。對。て。薙。倒。し。若。武者。馬。に。踏。走。し。望。横
 無。碍。に。走。り。し。と。ひ。と。小。波。漏。港。を。巴。を。討。た。ぬ。あ。ら。う。と。ん
 此。處。に。肝。を。潰。し。四。方。へ。轟。崩。し。し。響。し。の。敵。間。隙。に。後。は。雨。が
 自。害。せ。ん。と。長。刀。を。う。り。と。投。捨。ら。れ。ん。と。内。田。三。郎。家。吉。生
 死。知。じ。の。不。敵。者。が。れ。を。巴。に。生。捕。無。双。の。高。名。せ。ん。と。透。き。ん

系付り巴きりと云々。汝我其弟の世を継ぐ。殊勝なる男
 そと云々。傍ら松の立樹に流るるを然らんと喚て根拔はし。
 是を以て魁の天を奪ふ。一柱と打所を内田も其の者あり。力
 捨て馬系避れ。ほくとあて松の幹を捕互ふ。曳合捨合なる
 力ぬ利力と云々。小も。巴も。朔々の合戦。身方未だ深なる中に
 落も負さず。しが柳息も後へ。力疲り。多々。成
 強弱。松の樹を引ると。それ内田の一身の力を両手に懸て
 曳く。声も。引合。巴の面倒。と松を振捨馬系。系なく。無
 る。と。内田も無双の利力。巴に。組。是。と。其。身。痛。疎。て。傷。治
 ず。成。鞍。の前。端。に。推。伏。首。掻。切。東。兵。の。中。へ。抛。入。り。凡。人。業。業。と

と。きり。和。田。九。郎。門。多。盛。系。来。り。を。と。組。是。又。無。双
 の。利。力。あ。り。進。一。採。合。一。が。巴。の。透。向。も。だ。れ。傷。め。精。神。撓。つ。ひ。よ
 生。捕。と。叩。く。一。多。盛。能。令。大。力。に。も。せ。よ。巴。戦。屈。せ。り。あ。ら。ん。危。れ
 勝負。も。一。妙。く。多。盛。へ。欺。る。が。巴。の。女。の。一。陳。中。小。勞。了。也。也
 一。多。盛。を。感。入。專。し。屈。伏。し。在。る。諸。將。操。倉。へ。凱。陳。は。反
 時。頼。朝。々。巴。が。と。成。使。あ。ひ。つ。あ。も。流。し。た。女。に。對。面。と。な。り。さ。ゆ。せ
 利。勇。性。力。の。者。あ。ら。ん。筋。の。繩。を。打。屈。竟。の。武。士。兩。之。也。也。辱。せ
 せ。り。也。予。が。前。小。也。と。な。り。と。作。夜。多。盛。謹。ま。り。と。り。つ。る。系。彼。を
 生。擄。陳。中。に。さ。り。是。是。近。伴。未。だ。一。筋。の。繩。を。懸。て。唯
 番。士。の。一。附。並。れ。そ。友。は。柴。一。向。戦。場。小。針。死。を。是。勝。敗

此程の者也。一旦搦とまりしより、放垂はともも再び手向ひ被
 べん松を、秘成は勇ましく、女也。我程の狸目も縛はへ
 彼徒女へ文に嵐の如く、あはれを承る連法。前へおれんは、柳以
 用ひ不及やまると、中へ故武海、涼くも感方て。早速備長を
 召色法、坐敷うく、巴を以て、法所中より、日本隨一大力
 の巴。今日法月見と、法基所政子、其外女房、連法中より、透
 りせしに、中へ侍も、身常ぢり美女も。生年二十三歳、大體
 にて、抱すて、又替く、手は指先を、悉く如法也。漸二十三四
 と、中へ大力の女と思れど、唯笑るる、身は丈六尺、不
 道し、武海、巴は作らるる、その方、カを、六十餘、勿小夷く、今も

前より力の程と見え、女が、祇一は、搦は、と、巴
 承て、完承と微笑、女のかど、以て、見に入ん、不似合の、狐
 ころれ、大は、意を、違背、仕ん、せられ、と、つと、起る、御書院の
 大柱と、両手に、抱揺動り、ふ、四十餘、間、小拾、回、の法、教、め、く、と
 室、の、震動、を、女房、を、大に、驚、た、立、發、を、依、く、巴、の、早速、坐
 以、坐、る、時、に、武海、は、吾、を、揚、り、空、を、懸、り、入、り、入、り、入、り、と、
 清水、冠、者、の、面、を、一、氏、仲、の、付、死、を、外、兄、西、人、一、族、の、殺、死、軍
 物、法、に、母子、海、に、し、せ、び、一、ひ、は、後、く、久、し、け、對、面、を、覺、り、武海
 重く、清、良、を、召、れ、巴、が、怪、力、古、今、未、曾、有、と、る、く、法、執、力
 の、者、女、ろ、う、く、も、知、る、不、仕、成、會、ば、む、つ、じ、く、と、大、島、八、丈

嵩の内へ流刑下しつべしと思ふ。汝ホグ所存いづふと終の時小條
 大に狭又梶原ホいまはほき著しとる。和田丸堀門美盛彩ひ
 中々ん。巴と別法とせせむ。女の義列しく害むむやうたり。
 あられ美盛此度軍勢に替る。巴城下し終る。君恩の程
 有難く存する。美盛後妻小仕男子を依り。彼血脈と嗣
 稟す。君れ以用ふも立た承るも高く仕ん。公私の大慶よ
 いらん然らう。勢々碎事ハ波させゆと。功小希小依て。
 武備せむひ。たうらま。然らるのよは永く汝に託す。
 美仲一とび朝敵の名あり。そまや。合戦は伏し大勢の
 武士を討する。のゆ。朝廷へ討し。怖ある。表向ふ。群が。

當時終始しゆるのくへ。追て恩免の時。美もあんと。此ま
 中。美盛悦で。清に及び。是ら。後妻と。て。文治元年九月
 巴が獲に。男子。出せ。是。別。朝。比。系。三。郎。美。秀。之。是。を。実。ハ。本
 曾殿の。血。胤。と。胎。一。在。一。と。云。ハ。年。月。ホ。と。秘。旨。と。て。説。を。る。凡
 の。よ。く。碎。言。と。終。る。よ。此。兎。傍。て。夫。高。く。成。人。の。後。六。尺。八。寸
 あ。ま。し。と。や。母。の。力。を。と。稟。承。神。武。双。未。離。湯。役。預。ず。る
 こと。和。田。合。戦。の。働。り。と。知。べ。し。此。軍。の。時。ハ。巴。年。老。く。六。十
 歳。あ。ら。む。壯。ん。な。る。時。血。氣。に。何。せ。合。戦。に。無。辨。の。働。も。あ。り。ぬ。
 撲。身。折。傷。連。る。に。榮。し。物。の。用。み。足。ざ。れ。を。上。総。國。伊。弉。の
 庄。ぬ。所。に。り。が。所。詮。一。門。死。を。究。て。の。企。也。一。致。く。生

前の暇乞うごとく。和田が宿野に未在のふ。一門悉く付死の
 う承る。北へ下りて。我中國石軍堂と縁ある。あはれ死す。別
 髪。我後國友杖と云。処よ引ひ親り。義仲又子あり。びも父母
 兄才そ外。和田一門の亡跡。我懇に吊る。年終て之代。お軍
 実羽と薨あ。の。後。中。孫。温の時上京。一。漢。成。往。生。院。の
 境内。お。房。と。結び。拙。ち。り。是。と。紫。雲。菴。と。云。巴。は。処。に。位。と
 年。四。た。あ。へ。可。の。人。も。巴。尼。と。尊。影。と。小。糸。春。時。純。權。又。在
 頃。九。十。一。歳。ま。く。卒。せ。り。後。可。小。傳。る。巴。が。四。終。る。諸。國。了
 多。き。に。就。中。信。及。岐。阻。い。生。ふ。あ。列。て。の。と。と。ま。ま。巴。が。惟
 力。英。勇。い。う。も。奇。該。小。似。れ。た。情。岐。藪。の。里。人。男。女。童。

子の形勢をまらに女といふも男のまら。大なるこの城。お。小
 負。岩。礫。を。走。る。を。疾。き。と。猿。猴。の。小。枝。を。渡。る。に。等。く。あ。り
 速。ぎ。も。又。女。子。常。小。馬。を。曳。食。を。食。め。と。成。業。る。扇。風。を
 建。る。あ。ら。た。高。山。の。麓。細。く。成。過。る。小。裸。脊。馬。を。先。小。ま。く
 行。少。し。も。程。遠。く。た。た。へ。誠。時。の。十。二。三。歳。の。女。子。彼。裸。脊。馬。に
 ひ。ら。り。と。打。腹。ぐ。も。柳。も。あ。ら。ま。ま。あ。り。小。唄。ろ。ど。謳。謠。て。弛。る。と
 り。も。巴。女。も。あ。ら。る。に。地。よ。生。ま。く。毎。小。馬。小。糸。里。俗。婦。女。の。身
 に。男。子。の。ま。ら。き。行。と。つ。る。あ。く。自。ら。英。雄。に。る。と。も。ま。者。あ。り。み。や
 宮。城。沢。の。西。又。宮。原。村。と。云。あ。ら。此。処。木。曾。義。仲。の。城。址。を。存。在
 八。幡。宮。南。宮。洞。の。両。社。あ。り。極。て。要。害。の。地。み。ま。南。向。前。の

如圖馬ニ手繩ナケレ至テブイニシテ
カモサカシキ事ナシ亦細キ道ニ行違フ事アリ
馬片寄テ人ヲ通シ其様至テ人ヲ思レ足早ニ行コト
速ナリ



此里ノ男女常ニ鉈録ラ
入テ身ニ負テハサズ又
大ナル荷ヲ背ニラフキハ
是ヲアテモイトスハラニテ
作リタルモノナリ

鯢魚

此魚ハ法園溪間に生人四足有冥東ハ相列
箱根山の洞子の歩城上居とい一説に伝及
贊川辺日園下諏訪和田作の溪沢多ク
生也と予一夏の比彼地とるるところ
童女川にハ蛇と打返しく捕るりのある
向れば小兒小ふる茶用の魚と云ふ
怪しく思ひ込めて水産と記るる魚のどれ
魚あつくも迅疾と電光のごとく成
捉ハ女童多一小私を獲よ
附て川に浸搜索て獲難
収むと云ふれ本草云
鯢魚 鰩鰻 娃娃魚
本朝に鯢魚と云れてさへ
うと。もんざれと云り今の清朝
の黒魚と云ふ又鯢と鯢
鯢とつれていめとらと訓ハ鯢魚
もも呼ぶ本草に云り



十三歳文亦寫

橋南（南へ）長へ渡り。傍傳小義仲の碑碣あり。城の六
 先大思（思ふ）之知（之を知る）此碑は嘗時此所の从軍某侯建（建つ）らるる。
 里人傳（傳へ）らる。此城跡の乾の方に巴が倒あり。此処長と西の方
 の洞々より木曾川（川）落合あり。水勢冷しく。巖稜小激て渦
 巻る大海の奮浪小々く。往來小言（言ふ）たも更に（更に）物傳
 形勢強へきれ。又橋高沢のゆるに里格巴は前の茅漬と
 云傳る処あり。川の深潭に際び此辺大石委（委ね）し土格これ巴が
 と授（授け）し処と云又け処小山吹山と云り。荻曾の川を荻曾川と
 云（云ふ）る。正字小岐（岐）藪之平家物傳は義仲は二女あり。一は巴
 一は山吹元曆の合戦山吹（山吹）の疾ありて京師（京師）止れ此ゆへ

粟津へ土會（土會）ぐ。又源平盛衰記に義仲は二女あり一は
 葵一は巴兩人大善哉ふ葵の絨中必砥並山に平家と戦
 討死と又武書（武書）山吹へ藤原別當実盛の女ありと
 何ぞゆのどく。區く経（経）たる後（後）りや。是（是）山吹山より
 山吹市前を宴作（宴作）し。作者の詞花言（詞花言）はう（う）叙實事とて
 傳（傳）はる。其傳は本朝の正（正）記録（記録）も巴がこ
 りの山吹葵（山吹葵）の云り（云り）の云（云）ふ。東鑑盛長私記（私記）は
 栗見（栗見）史誌（史誌）る（る）も托（托）り。宮城（宮城）の日照山徳音（日照山徳音）の
 京妙心寺未除海（京妙心寺未除海）の縁（縁）あり。木曾義仲の冨（冨）墓（墓）は
 木曾の位牌あり。想將軍（想將軍）長仲宣公大居士と誌（誌）は義仲

星月夜村長巻下

一七

廣く。南に美濃に鄰。一條谷口狹く。行徑三日。法の深山に仮舎を
 百万の大故をまゐるとも。一人要害に立塞し。御へまゐりて。貴
 後不嵩のそ。前へ一歩も進む難く。敵弱くは。貴
 に奪く。遊藝け。敵一く攻め。引へ。閑道。根柢切落。峻
 嶺の間。小谷。入に。敵天に翔。此。姻。を。あ。と。け。あ。る。ん
 天下無双の地。現と云。あ。れ。ど。も。平。常。ら。い。つ。も。不。自。在。な
 且。平。比。に。條。を。據。一。飲。あ。る。は。皆。出。敵。と。云。り。の。之。妻。孔。歌
 の。東。に。あ。る。木。曾。義。昌。築。て。山。村。良。孫。と。云。り。居。し。め。と。云。長
 聖。小。あ。る。木。曾。殿。の。館。後。と。云。い。下。馬。其。丹。遺。跡。孤。然。た。る。木。曾
 家。村。以。後。之。富。中。小。居。一。厥。后。復。此。小。居。一。在。系。此。義。在。の。子

肥前守義康の時。福島に役。是。甲。陽。武。田。誓。を。約。し。條。和
 する。此。人。之。又。信。陽。第一。の。大。山。の。涉。嶽。なる。是。小。次。豹。が
 嶽。と。云。あり。宮。城。者。の。上。水。の。方。に。も。る。此。山。を。架。往。昔
 名。馬。出。し。と。ぞ。今。小。あ。る。山。頂。小。馬。の。株。を。食。する。以
 あり。と。ぞ。豹。が。嶽。と。呼。ぶ。ら。の。由。なる。べ。後。日。本。紀。小。天。平
 十年八月。信。濃。國。獻。神。馬。思。身。白。髮。尾。と。云。云。此。山。の。木
 曾。の。東。嶽。なり。其。高。ら。と。殺。千。仞。峯。嶺。連。続。し。一。方。の
 山。頂。に。石。あり。形。馬。の。如。し。或。書。小。當。山。に。四。百。年。未。了
 あり。神。馬。あり。と。も。思。ふ。此。邊。に。成。生。さ。る。か。と。と
 化。國。子。吳。有。り。里。中。人。衣。に。了。成。生。其。蕃。息。歲。々。幾。許。を



五月
馬市圖
福島驛



ありて誠まことに鞆たづしたる。一里餘いちりよを隔へだつ。福島ふくしま之この此狀このまじを
 玉たま々々繁昌はんしょうありむ。尤なほの高買たかひ多おほし。就中あつちゆう五月中ごがつちゆう半夏はんげ
 の頃ころ毛附もうづと云いふ。是これ七日ななひの間あひだ之この是これを福島ふくしまの馬うま
 市いちと云いふ。當國とうこくの云いふ。降國くだり天波尾張あまなみ三河遠さんかえんに甲列かうりつ
 飛ひ浮ぶの由よし。そ。代しろ四五里ごしりの地ち。馬うま汝に曳ひ引ひ賣う買かひひ
 こと鞆たづしたる。んどり。あ。さ。さ。さ。終しまつ。た。人ひと小こ道みち狭せま
 して牽ひき。行ゆ遠とほされども。當ある。あ。ひ。孤ひとり羅ら怪かい我われとある
 あり。終しまつ。れ。是これ又また一奇ひと事ことと云いふ。木曾中きそちゆう每ま双ふたの大市おほいち
 ざう。し。く。を。月つきの。約やく牽ひ。約やく送おくう。の。事こと。歌うた人ひと俳はい士しの。知し及およぶ
 知し今いまを。双ふたく。古ふる思おもへ。へ。へ。へ。口くち號ごう古ふる歌うた也なり

遠坂とほさかの関せきの。注水しゆすいに。新あらたと。今いまぞ。牽ひら。ん。を。月つきの。約やく
 延喜式えんぎしきに。約やく送おくの。と。事こと。一ひと。每ま年ねん八月はつがつ十五日じふご日にち。朱しゆ萑わづら院いんの
 法ほふ國こく忌いに。當あり。れ。ば。十六日じゅうろくにちと。諸國しよこくの。所ところ牧まかし。約やくを。牽ひき
 夫つま也なり。十七日じゅうしちにちより。甲斐かうい又また岡おか德とく坂さかの。馬うま。女め。武ぶ藏ざう小野このの
 馬うまと。云いふ。信しん及およぶ。の。馬うま。牧まかし。あ。る。約やくも。あ。る。い。ま。あ。り。た。と。事こと。あ。り
 とう。や。あ。り。原はら山やまの。落おち合あ高たかと。東とう水すい二里にり件けんに。あり。山さん中ちゆう一里いちり
 海うみの。平ひら坦たんる。地ち。み。く。く。く。く。く。く。人ひと家かあ。り。に。近ちかた。以もつ田でん園えん
 を。完まるく。の。と。残のこり。と。い。ふ。

朝比奈あそひな素すな三郎さんらう義秀よしひで再説さいせつ

和田茂盛巴女以後妻とす。胡比素を生と前小云正茂盛ハ
 上総と房別を以て其常盛は亦督とす。次男胡盛きて
 実胡云小眠進一。殊々神古小叶いりれを別後小从初と初小
 是後と列小一私代起と起す。之男茂秀ハ安房由胡夫以
 分とす。宅比を相及鎌倉小林々々正路い表方の勤番
 以召出さす。此由ハ小林とも胡夫とも稱を夫とい鄙の茂
 也へ胡夫二字ふくあさひる。今房召に胡夫初あり。茂盛
 胡比素と。之字ハ書ハ後世のとも。私海録々第一児女の後七
 の史是らハ世俗の通用に任せく改を和田合我落去の後其
 行末知されバ。茂時甚と怖と法召へ觸と探求と。とも文に

然りもは。其當かハ二年が程ハ今も胡比素羅入と。ま
 公稱を悩と。之とも。細々ハ茂秀ハ城前國若林といハ如
 以柳の知縁あり。其の比れ山中ハ隱と栖と。孫も若林
 抄と。後年と。ハハ胡鮮國へ渡ると云。又一書小胡夫之郎
 泰秀とあり。實ハ泰秀あるは。されども法軍書と。ま
 茂秀と。ハハ海録ハ。妻ハ元後と。信ハ加勢川之
 島の後の山下ハ崩城の古城趾あり。是ハ木曾義仲と。察
 十二代木曾元宗と。支茂元の出城と。ハ。親軍國の軍勢成
 留る要害と。此と。濃親信之國の邊に之浦山有。出獄
 王の院と。登る道あり。里老傳て云。和田合我の時と。族

ちの逃隠。後漸誠と云地子福多り。今にむく能誠村の
 古民の浦氏を称し。訛る三牟礼といふ。字の浦と云
 能誠の比に神の推氏兼遠を宗祀する。是美秀よの
 外祖なり。中之浦山に之浦を其の宅趾と云ありて。山中より其
 墓あり。古樹茂多り。是れ和田美望の族建る処と云。之浦
 大丈と云人の子。勢力凡る。其の肉美法回小々小行其里人大
 び。盤石に脚丈六十人あり。擔人に猶行と成り。是れ又て
 方丈と云。命に命。肩を架して行。友里人大々。欲せり。又
 大木に拵拍子杖と云。木曾に歸る。去り。此子一日馬を
 負。山に誠を。誠と云。あつ。莊力の胡比宗二郎

小あづべと云。彼は思ひ考と云。和田美望が自實
 新武者と云。美秀又を貞母巴が故國木曾の山と云。索
 と云。潜隠と云。疑れと云。されども古書にこれに美秀胡鮮
 に入ると云。澄明と云。和田之浦りや。同家といふ。之浦を夫と
 変名せり。肯がと云。説と云。美望の生害と云。美秀の行方と云
 と云。之浦と云。漸るたりのたると云。

荏柄平太胤長実終の確言

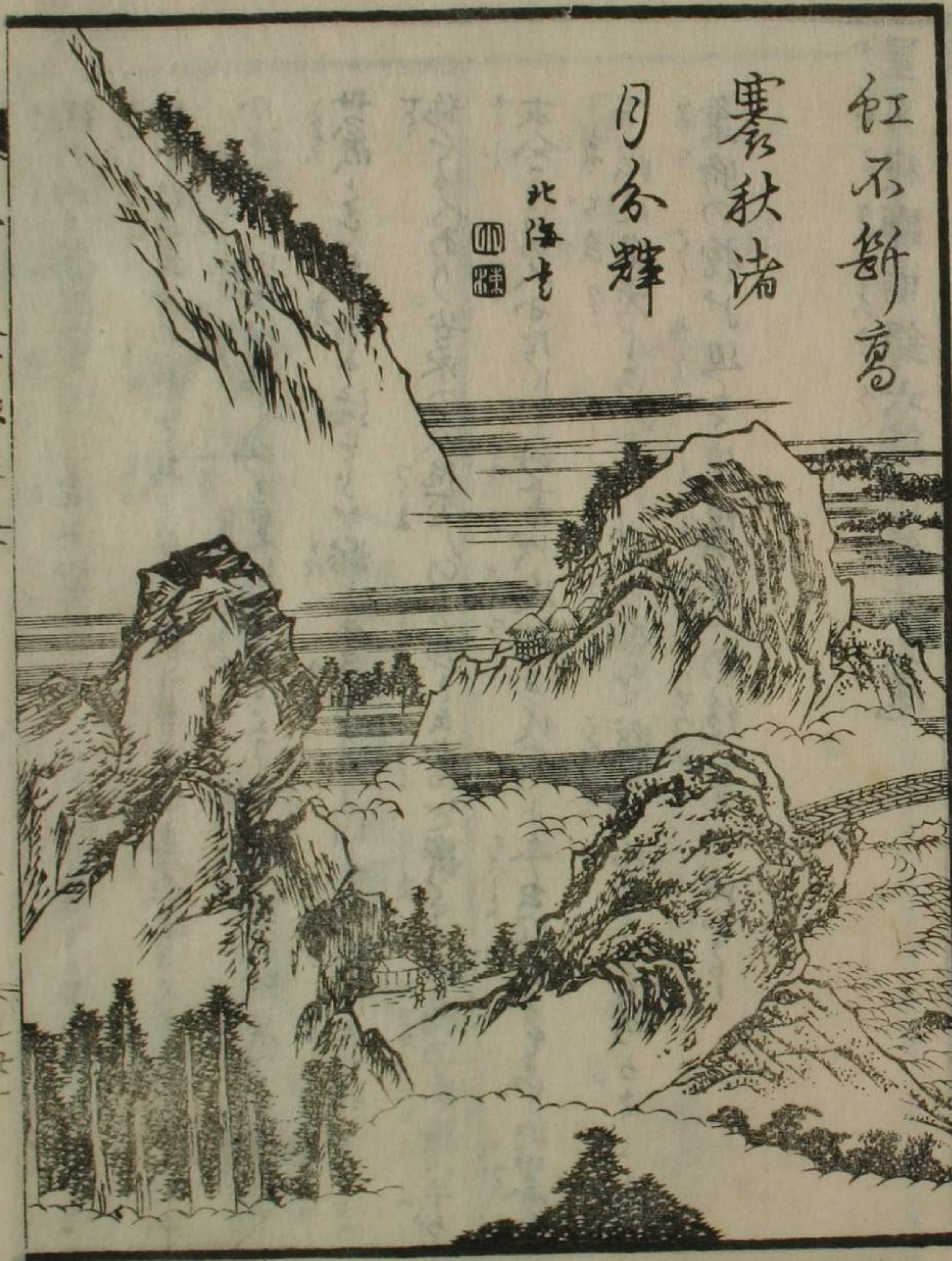
胤長は先年。泉小次郎親平が係致に。同意と云。小尼と
 云。小条美時と云。和田一統と云。不仕と云。及逆の張本人と云。と
 云。美望以下一族大勢の中と云。延尉の及引渡と云。

一門の秘傳の秘傳。其時亂長の忠良の大膽者なれば
 尼公止条が前うて、美時が奸佞邪悪を善く罵りつゝ
 悲憤の中の内は死刑も處せざりしと思つども彼諸士の前
 君に討つとす。新不忠を存せざりし。唯止条一と亡し。君乃
 以爲に非道を除ん斗義の。然るに傍室の小条に謀叛の
 秘を承伏せざる者成りし。君の心は前諸士の心を懐て流
 流刑に流し。激しむれ大御宿怒の沙はぢ。配所奥列岩に
 送つても勢を漸嚴重に付。年作らば君の赦免の内存
 方々。尼公中。心は公の心を知し。召喚せしむるに
 に打らぬ。あつるに物変年授ては。自死と怪忽に成り。あつるに

長七退屈に目を送り。元末武術派煉到勇無双術ありぬ者
 も。つた。農民の着者杯を湊へ。劔術槍術小坂教導
 ち。に。我。と。集。會。し。し。執。青。古。も。は。ど。に。匹。支。村。民。よ
 ち。を。い。は。し。駭。し。し。時。あ。ぶ。り。の。有。り。是。代。消。日。の。樂。と。す。居
 り。時。に。和。田。美。整。一。家。大。乱。を。発。し。終。つ。美。時。を。討。つ。と。す。
 一。家。あ。ら。び。減。亡。す。唯。三。郎。美。秀。戦。場。を。逐。電。も。國。郡
 山。谷。隈。に。あ。り。美。秀。を。え。り。つ。を。救。救。す。も。嫌。し。止。置。く。密
 に。法。を。せ。り。大。名。斗。の。あ。り。御。慶。美。ハ。其。者。の。を。向。不。任。べ
 と。せ。り。れ。ば。亂。長。天。を。作。り。長。款。一。門。の。棟。梁。高。忠。の。軍
 と。記。を。杖。に。し。天。何。れ。小。条。の。悪。を。赦。め。し。や。赤。君。の。心。運

七是と云く。頼朝々の血脈。影致遠く。と血脈に流る。或を
 怒あつひハ悲きり。日あづべし。鎌倉より。檢使兩人。来
 ず。胤長を。殊戮。あつ。との命。代。傳。胤長。を。あ。め。あ。と。て。
 云。彼。を。改。め。檢。使。を。後。に。僅。く。君。命。を。兼。了。を。後。申
 中。各。多。遠。洛。心。を。成。玉。極。之。作。の。故。畏。も。有。唯。今。あ。れ。え。
 尋。常。に。切。腹。致。す。一。門。の。棟。梁。並。盛。此。夜。の。始。未。尚。可
 君。一。對。し。く。怖。あ。ふ。小。少。れ。た。今。一。家。滅。亡。の。と。き。君。乃
 以。危。難。近。付。ぬ。古。右。幕。下。の。辛。万。苦。し。て。定。あ。ひ。し。鎌。倉。の
 大。業。一。朝。に。中。し。く。八。幡。殿。の。嫡。家。連。務。し。る。清。和。源。氏。城
 不。見。に。化。姓。ハ。派。ん。と。和。田。一。家。甚。よ。玉。と。死。す。も。美。泉。乃

迷ひ。尼。公。教。明。の。方。う。れ。た。女。性。の。と。也。嫉。妬。の。思。海。に。の
 之。め。く。親。身。の。也。小。弟。の。好。悪。根。治。に。如。小。少。身。あ。れ。時。に
 隙。では。尼。公。も。赫。を。嚙。あ。の。以。後。悔。積。面。が。利。未。ど。く。廣。元
 美。盛。在。て。ど。く。君。の。危。死。上。氷。を。履。で。冰。水。を。踏。卵。殼。累。て。
 佛。塔。小。積。か。ど。く。廣。元。年。老。了。入。道。一。美。盛。美。泉。の。後。人。と
 ざ。り。て。の。信。人。の。信。實。君。の。藩。屏。と。り。山。条。孰。を。怖。く。事。を
 此。ご。ん。時。改。以。来。終。末。る。如。の。逆。係。影。見。出。時。而。呼。嗚。呼
 天。が。う。れ。命。多。る。あ。る。余。今。死。を。賜。る。と。そ。せ。ん。ん。の。事。ひ。と。も
 中。さん。存。命。在。了。天下。化。姓。に。由。ら。る。と。ん。ば。生。ろ。ろ。悪
 魔。怨。鬼。と。も。愛。ど。き。と。と。く。鬚。髮。空。城。衝。て。逆。立。眼。め

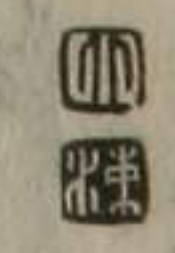


紅不斷高

寒秋渚

月分輝

北海寺



星月夜舟集卷之二

一



横截暮烟



信濃國

桑路の

橋の園

星月夜舟集卷之二

一

俗の知る大勇の人なり。殊小智條亦く萬速智なる人。後を祖自
 身不打ちてうの跡を後ともいに教十尋の水産の入るる人あり。思ひ
 小半丁中川の流るる尾成平本と云ふ事此川成代より今あり
 世産と云ふ事。此の流るる尾成平本と云ふ事。此川成代より今あり
 移るる人あり。安永の改元此の事あり。此の事あり。此の事あり。
 友なり。友人あり。此の事あり。此の事あり。此の事あり。
 信濃地及考との事。此の事あり。此の事あり。此の事あり。
 兼路の指し込。信陽才一の絶景の地なり。

星月夜頭晦録六編附録下大尾

和漢
 西洋
 書籍賣捌處

大正...

群玉堂河内屋 岡田茂兵衛

